

# 果試ニュース

第15号 平成13年9月



イチジクヒトリモドキ



平成13年産温州ミカンは豊作が予想されていますが、今年から国は表年の価格暴落を緩和するために、新たに需給調整対策、経営安定対策を打ち出し、摘果の徹底等により、11・12年生産量を平均した生産量にまで落として再生産が出来る販売価格が維持出来るようにしています。しかし、現時点では着果量がまだまだ多く、地域を上げて仕上げ摘果に取り組む必要があり、ミカン農家の方々は、この秋は「摘果の秋」と心に決めて全力投球して高品質安定生産、安定経営を実践されるよう期待しています。

今回の果試ニュースは、屋根かけハウスによる不知火の完熟栽培技術、肥効調節型肥料による伊予柑の施肥効率向上、イチジクヒトリモドキの3篇を取り上げました。不知火の完熟栽培は、翌年の発芽後まで樹上に果実を置き、増糖と減酸を進めて食味が格段に向上してから採取するもので、販売ルートを確立すれば有利な販売が期待されます。肥効調節型肥料の利用は、即効性の肥料は一時的に肥料成分が園外に流出しやすいため、緩効性にして、この流亡量を抑制するものであります。特に植物に必須の窒素は土壤中で硝酸化されて有害となることがあるので、施肥した肥料のほとんどが園内の樹に吸収されるようにする必要があります。草生栽培試験と合わせて実用化技術の確立に取り組んでいます。イチジクヒトリモドキは、地球の温暖化によって南方にいたものが生活圏を拡大してきたと考えられます。これからもこうしたケースが多々発生すると考えられますので、皆様方には新種害虫の発生には日頃から注意していただき、発見した場合には早めに連絡していただき、手遅れにならないように防除対策を確立してゆきたいと考えています。

場長 別府英治